

2021年度（2022年3月期） 決算説明資料

2022年5月12日

H.U.グループホールディングス株式会社

（証券コード：4544）

- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDAの数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。
- ※ 「親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益」を「当期（四半期）純利益」と省略する場合があります。
- ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
- ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。
 - 検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)
 - 臨床検査薬事業 : IVD (In Vitro Diagnostics)
 - ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)
- ※ 2021年度第1四半期より報告セグメントを変更しております。本資料は過去実績も遡及し、変更後のセグメントの報告区分に基づき作成しております。
- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2020年度 : 1USD = 106.06 JPY 1EURO = 123.69 JPY

2021年度 : 1USD = 112.37 JPY 1EURO = 130.56 JPY

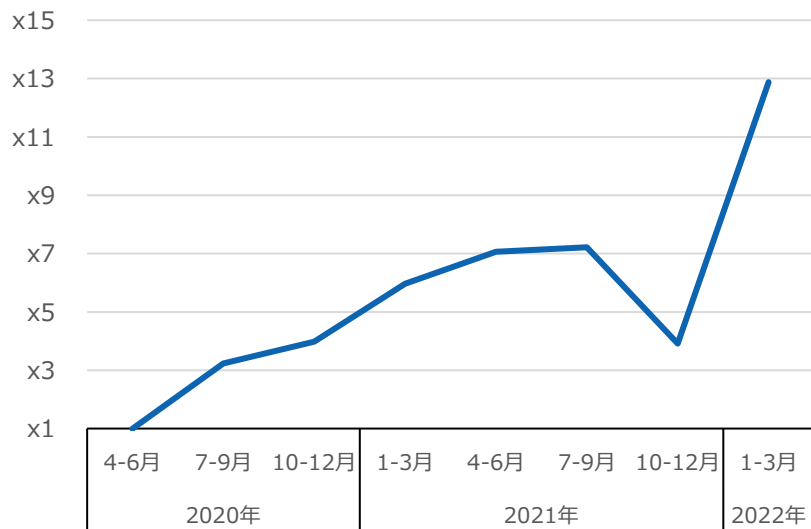
2022年度 (計画) : 1USD = 114.00 JPY 1EURO = 130.00 JPY

2021年度（2022年3月期）業績概況

新型コロナウイルスPCRおよび特殊検査受託状況のトレンド

PCR検査受託状況 (新型コロナウイルス関連)

2020年4月-6月の受託総数を1とした場合の増加率^{※1}

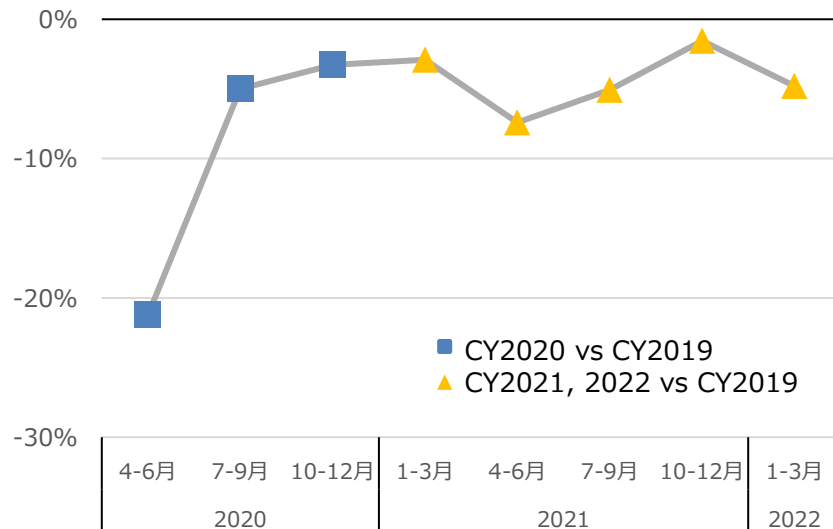


- オミクロン株による感染拡大にともなって検査受託数が増加

※1 SRL、日本臨床の全国での受託

特殊検査の受託状況 (新型コロナウイルス関連検査を除く)

特殊検査ID数^{※2}のCY2019年同期比

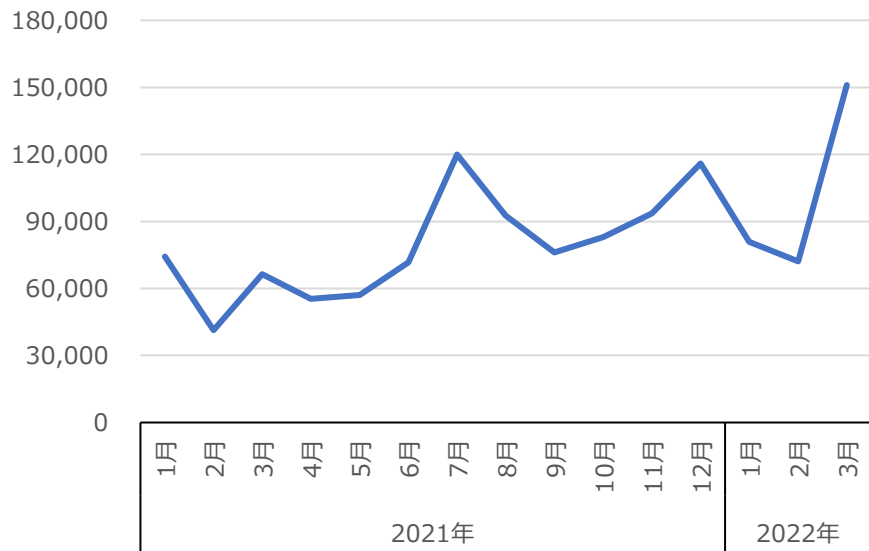


- 新型コロナウイルス影響が顕在化する前のレベルを下回る水準で推移

※2 八王子ラボ、あきる野ラボ受付分、稼働日調整後

新型コロナウイルス高感度抗原定量検査実施数のトレンド

空港検疫所での月次抗原定量検査実施数[※]



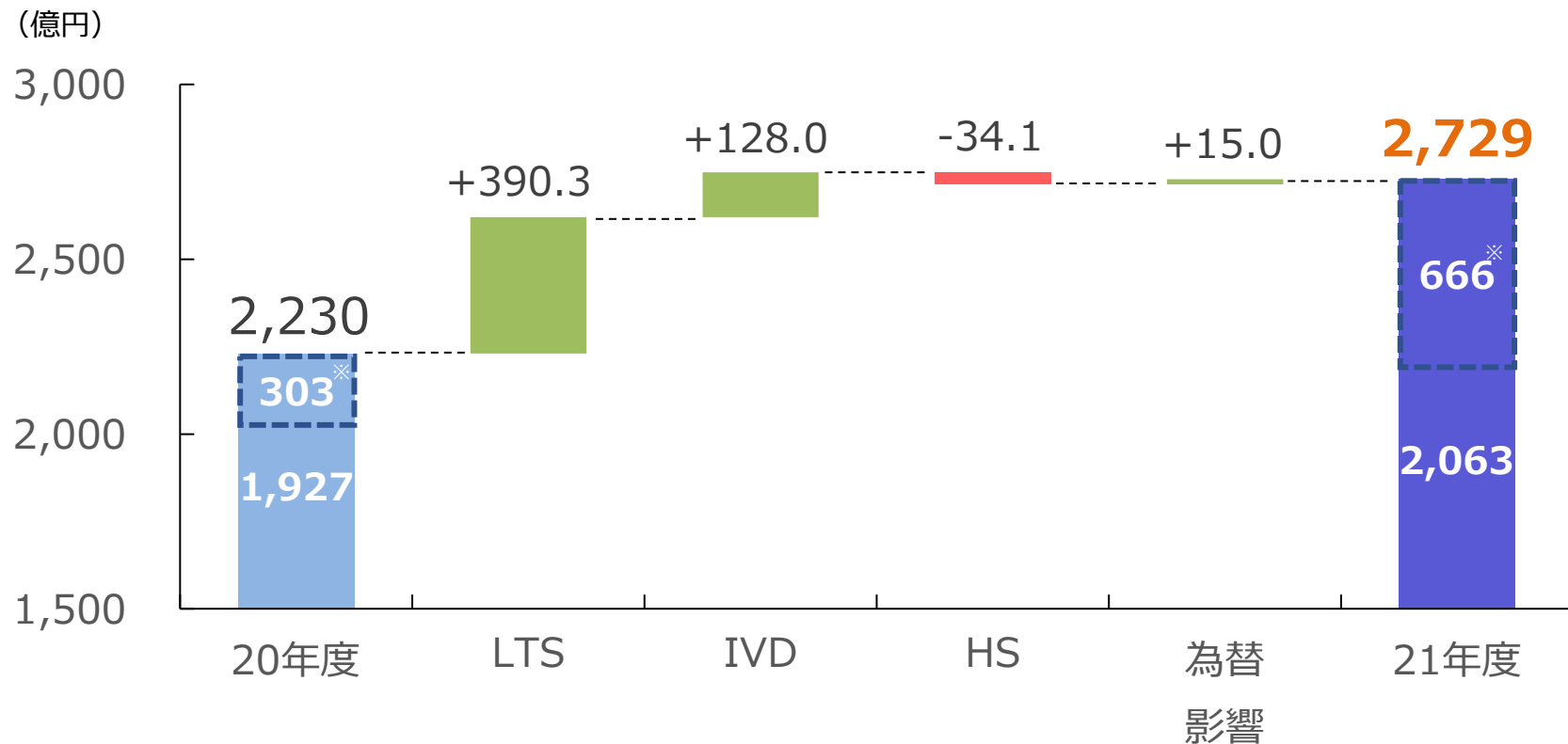
- 2月にかけて一旦は減少も3月に入り急増（4月も高い水準が継続）

医療機関における月次での高感度抗原定量検査実施数[※]



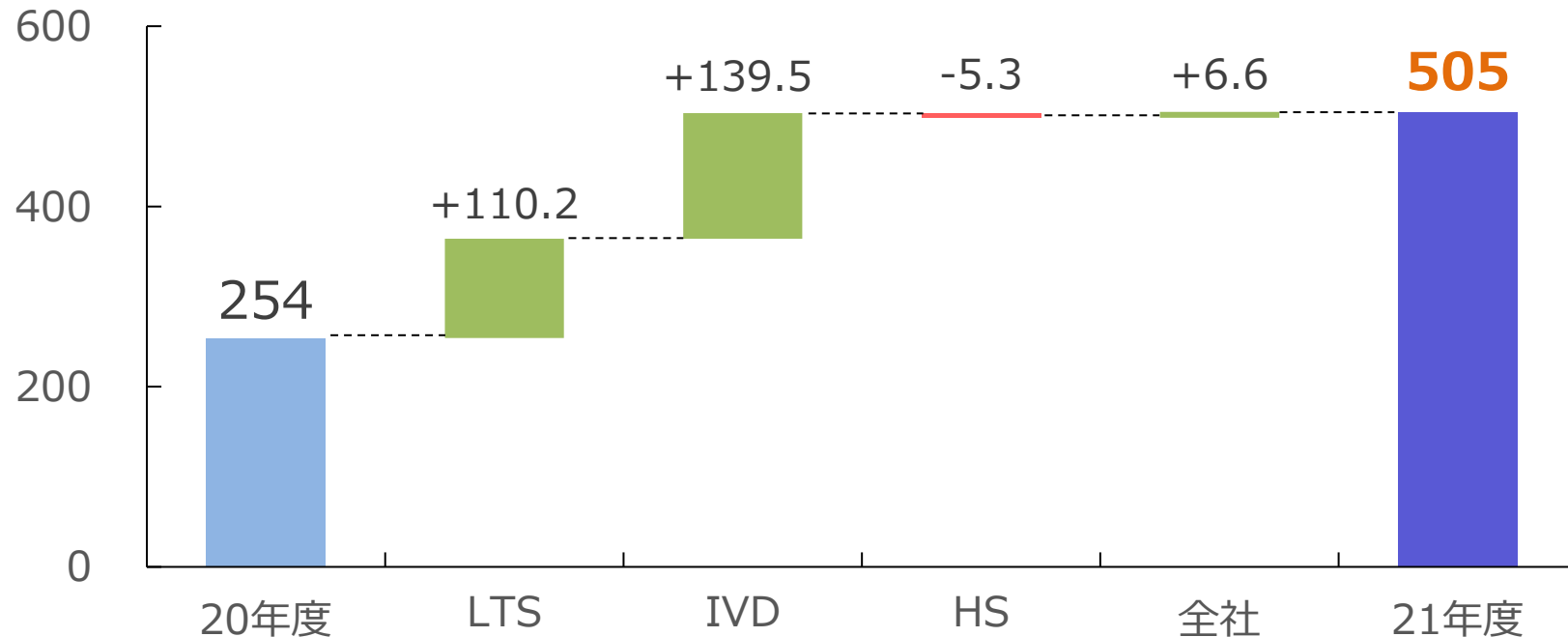
- オミクロン株による感染拡大と連動して検査需要が急増

連結売上高 対前期比較

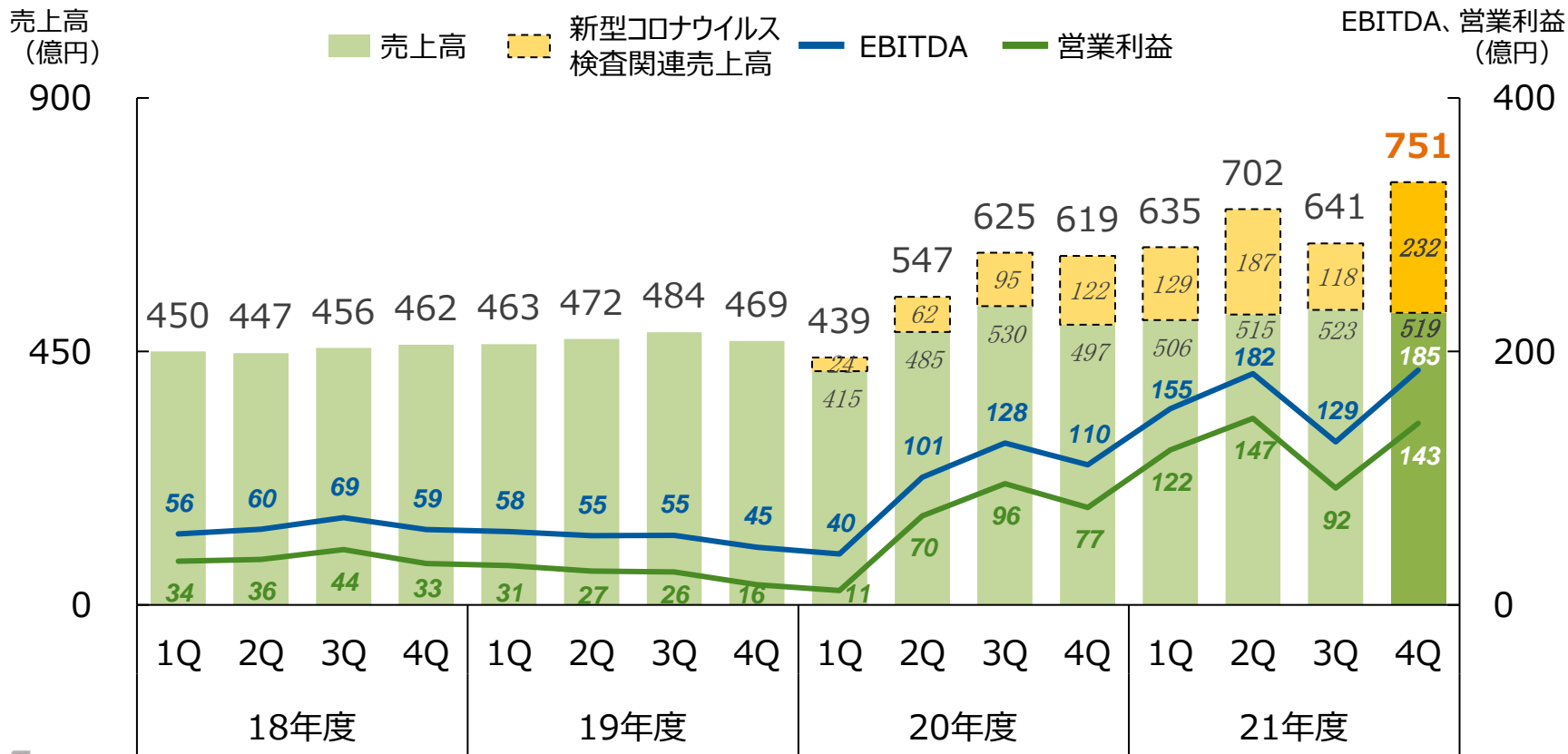


連結営業利益 対前期比較

(億円)

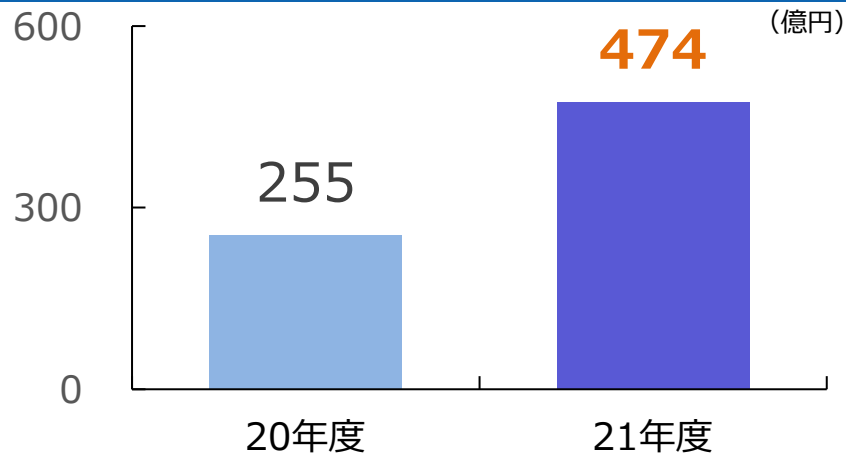


四半期毎の業績推移



連結経常利益および当期純利益

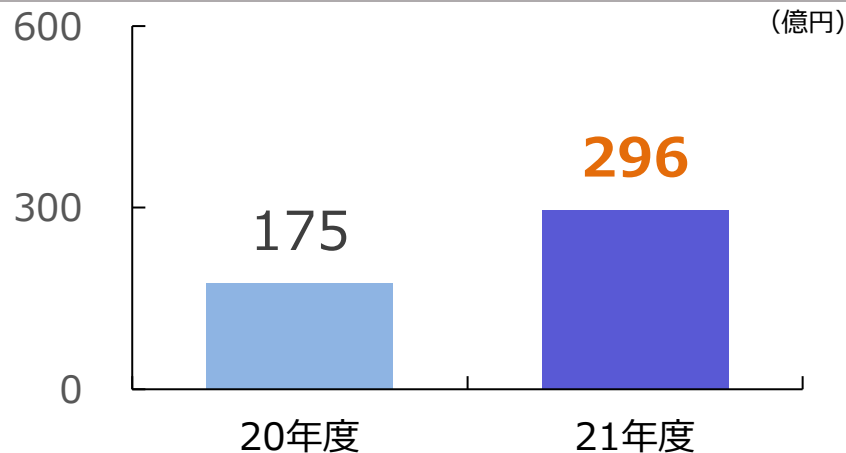
経常利益



主な要因

- ベンチャー投資ファンド運用益 +10.1億円
- 持分法による投資損失 ▲23.4億円
 - ✓ BMGL ▲10.4億円
 - ✓ 平安保険グループとのJV ▲13.0億円
- 債務保証損失引当金繰入 (平安保険グループとのJV) ▲14.1億円

当期純利益

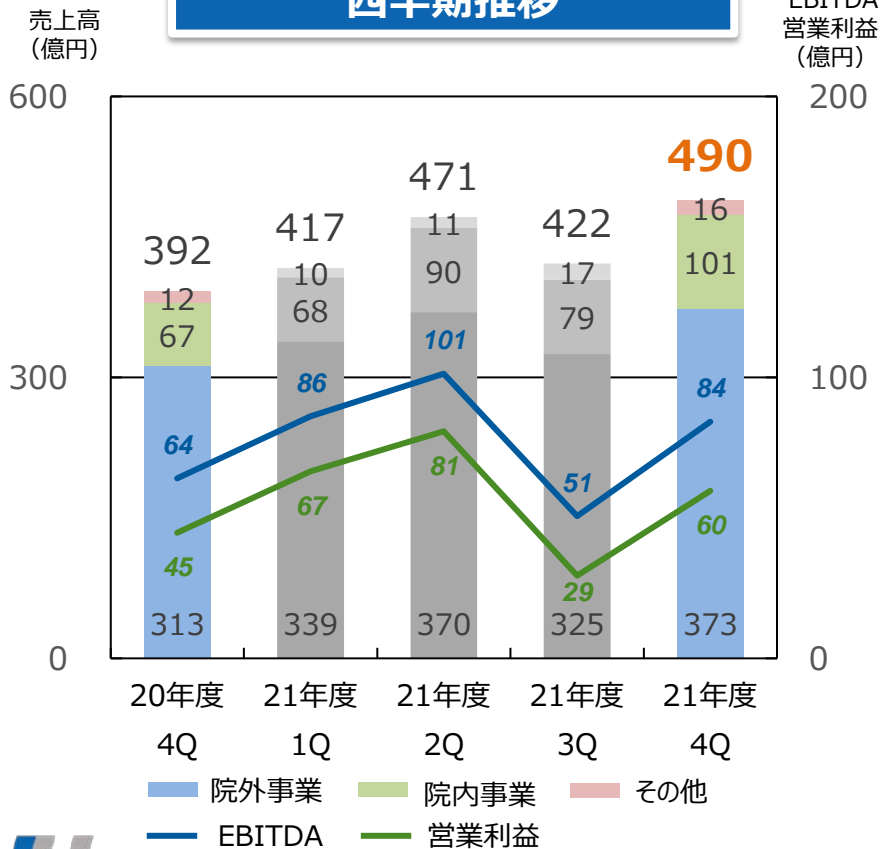


主な要因

- 減損損失 (H.U.グループ子会社) ▲21.7億円
- 投資有価証券評価損 ▲6.8億円
- その他の投資評価損 ▲7.8億円

LTS事業

四半期推移



対前期比

(億円)

	20年度	21年度	対前期比 増減	
売上高	1,409	1,799	+390.3	+27.7%
院外事業	1,121	1,406	+284.7	+25.4%
院内事業	240	339	+99.4	+41.5%
その他	48	54	+6.2	+12.9%
EBITDA	198	322	+124.9	+63.2%
営業利益	126	236	+110.2	+87.4%

売上高

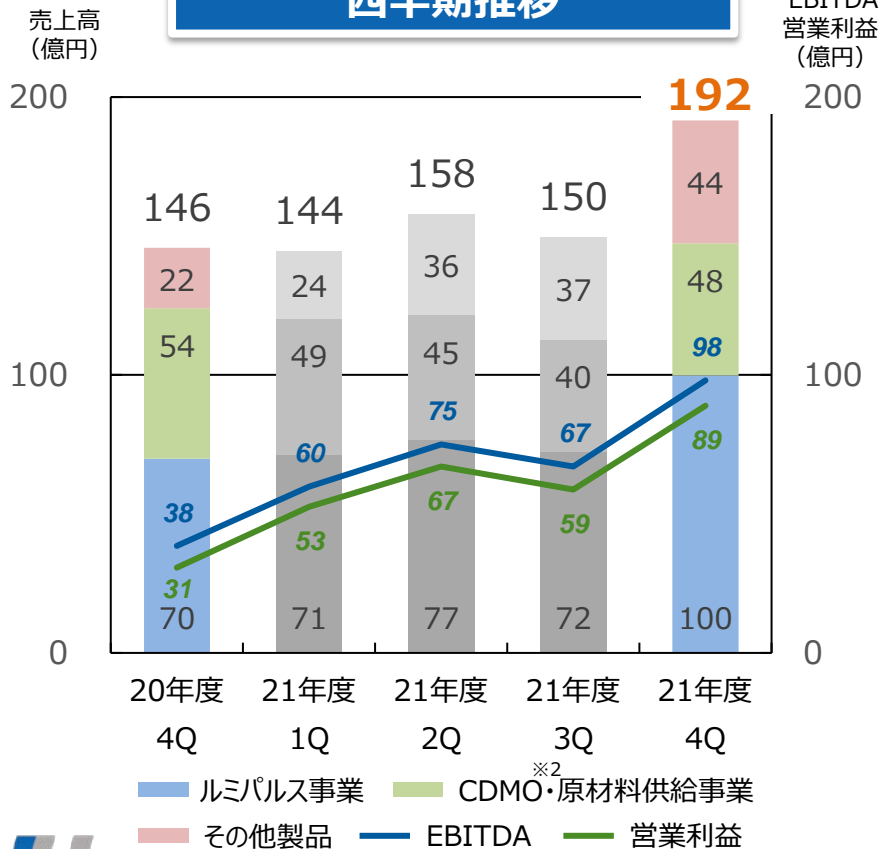
- 新型コロナウイルス関連：約448億円（前期比+262億円）
PCR検査、大規模イベント対応、空港検疫所をはじめとする高感度抗原定量検査、等
- 遺伝子関連検査の増加
- 前年度減少した検査数の回復

営業利益

- 新型コロナウイルス関連検査による増収にともなう増益
- 検査数の回復による増収にともなう増益
- H.U. Bioness Complex関連
一時費用含む経費 66億円、減価償却費 3億円

IVD事業

四半期推移



対前期比

(億円)

	20年度	21年度	対前期比 増減	
売上高	500	643	+143.0	+28.6%
ルミパルス	224	320	+96.0	+42.8%
国内	188	275	+87.3	+46.4%
海外	36	45	+8.7	+24.1%
CDMO・原材料	166	182	+16.2	+9.8%
その他	110	141	+30.8	+27.9%
EBITDA	159	300	+140.9	+88.6%
営業利益	128	267	+139.5	+109.1%

ルミパルス 内販売売上高	50	83	+33.4 ^{※1}	+67.5%
--------------	----	----	---------------------	--------

※1 新型コロナウイルス関連検査試薬を中心とした売上高の増加

売上高

- 新型コロナウイルス関連：約218億円（前期比+101億円）
 - ✓ ルミパルス事業：「ルミパルスSARS-CoV-2 Ag」
 - ✓ その他製品：「エスプラインSARS-CoV-2」
- 前年度減少した検査需要回復にともなう増収

営業利益

- 増収および内販拡大による増収

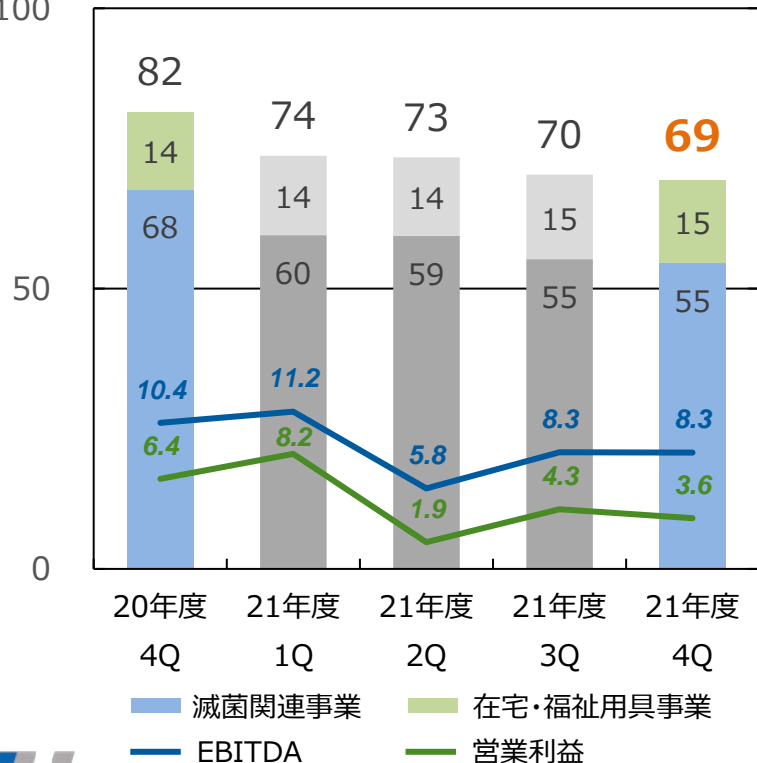
※2 当第3四半期より、事業・製品特性を考慮し、OEM・原材料供給事業の名称をCDMO・原材料供給事業へ変更

HS事業

四半期推移

売上高
(億円)

100



EBITDA
営業利益
(億円)

40

20

0

対前期比

(億円)

	20年度	21年度	対前期比 増減	
売上高	321	287	-34.1	-10.6%
減菌関連	267	229	-38.5	-14.4%
在宅・福祉用具	53	58	+4.5	+8.5%
EBITDA	37.3	33.6	-3.7	-9.8%
営業利益	23.3	18.0	-5.3	-22.8%

売上高

減菌関連

- 医材預託品販売における収益認識に関する会計基準適用の影響 (▲20億円)
- 大口顧客における医材預託品販売契約の終了
- 物販を中心とした伸長

在宅・福祉用具

- 堅調な成長

営業利益

- 人件費の増加
- FY21_2Qに貸倒引当金を計上 (▲2億円)

連結業績（対前期比）

（億円）

	20年度	21年度	対前期比 増減	
売上高	2,230	2,729	+499	+22.4%
LTS	1,409	1,799	+390	+27.7%
IVD	500	643	+143	+28.6%
HS	321	287	-34	-10.6%
営業利益 ※1	254 11.4%	505 18.5%	+251	+98.8%
LTS	126 9.0%	236 13.1%	+110	+87.4%
IVD	128 25.6%	267 41.6%	+139	+109.1%
HS	23 7.3%	18 6.3%	-5	-22.8%
経常利益	255 7.4%	474 17.4%	+220	+86.3%
当期純利益	175 5.2%	296 10.8%	+121	+69.5%
EBITDA ※2	379 17.0%	651 23.9%	+272	+71.9%
ROE	16.0%	23.2%	+7.2pt	-
ROIC	8.7%	15.4%	+6.7pt	-

※1 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（20年度：▲23.3億円、21年度：▲16.7億円）

※2 EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

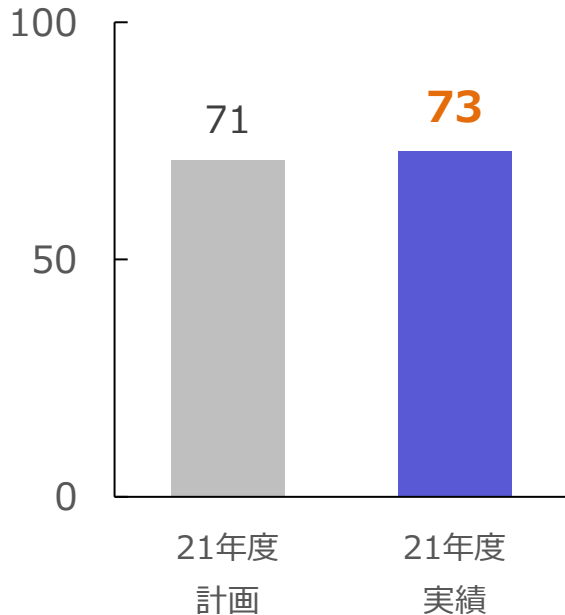
※3 各項目の右肩数字は、各売上に対する利益率

研究開発費、設備投資額、減価償却費（対期首計画）

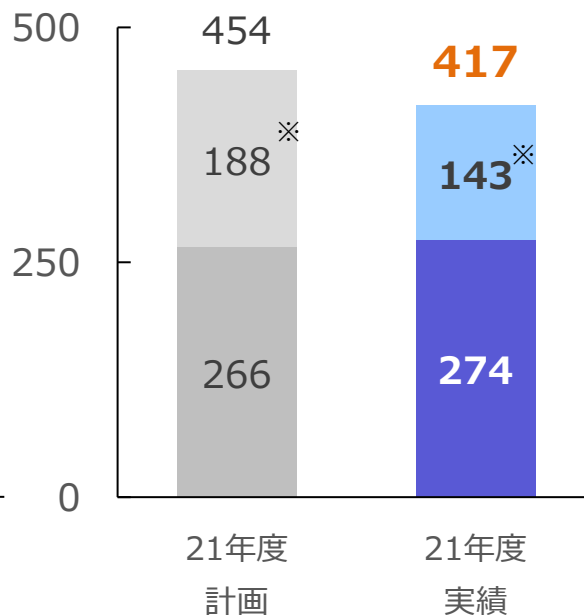
- 設備投資：H.U. Bioness Complex 自動搬送ラインの検収遅延の影響
- 研究開発費・減価償却費はおおむね期初計画通り

(億円)

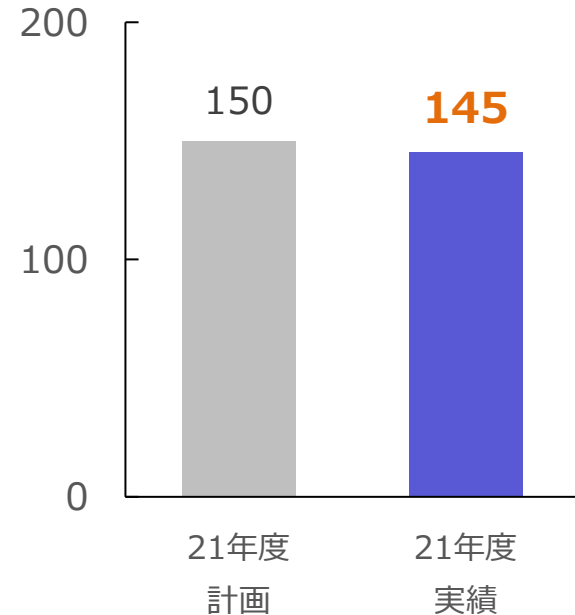
研究開発費



設備投資額

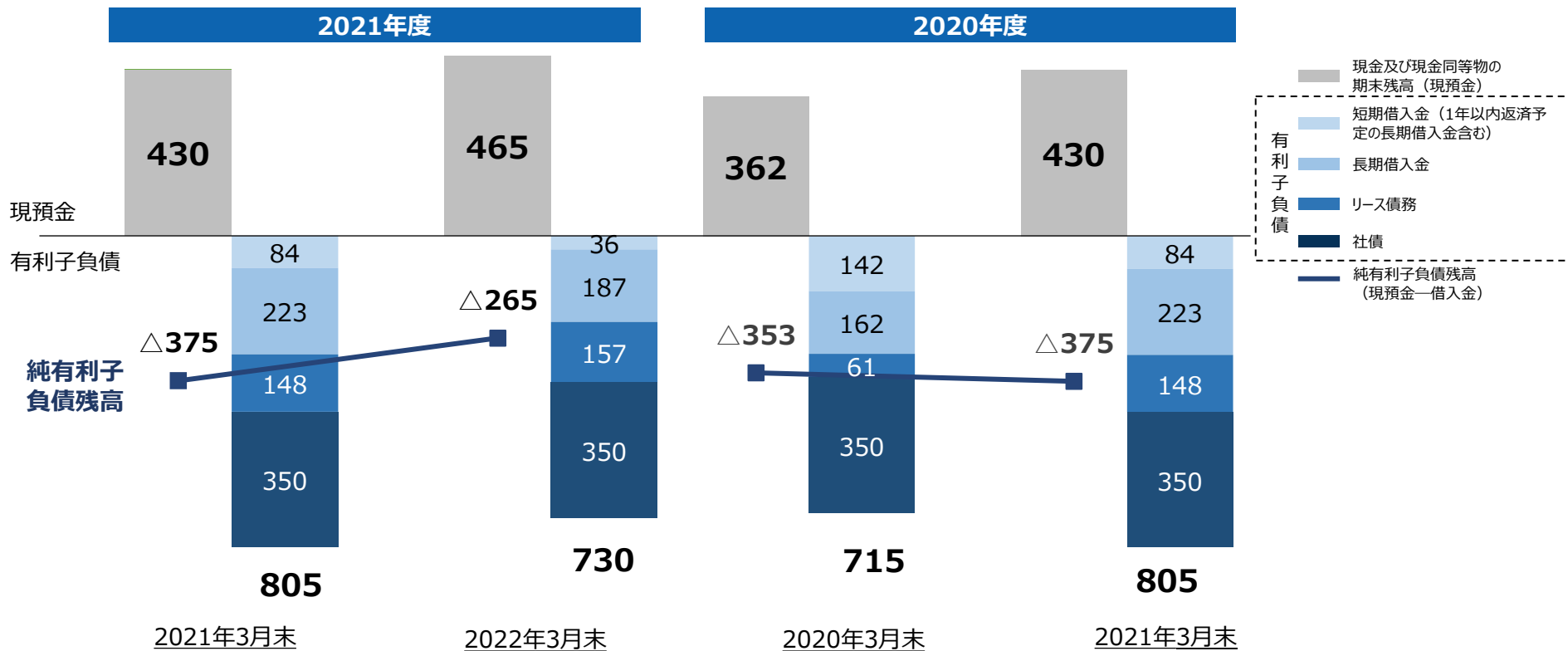


減価償却費

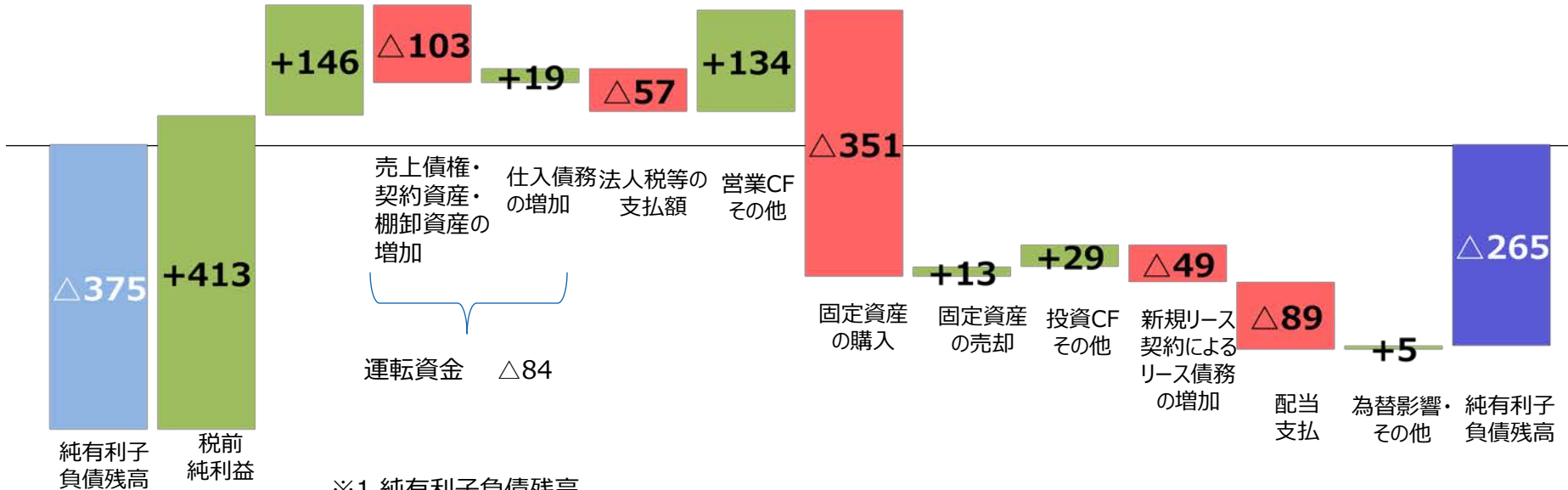


現預金・有利子負債残高

(億円)



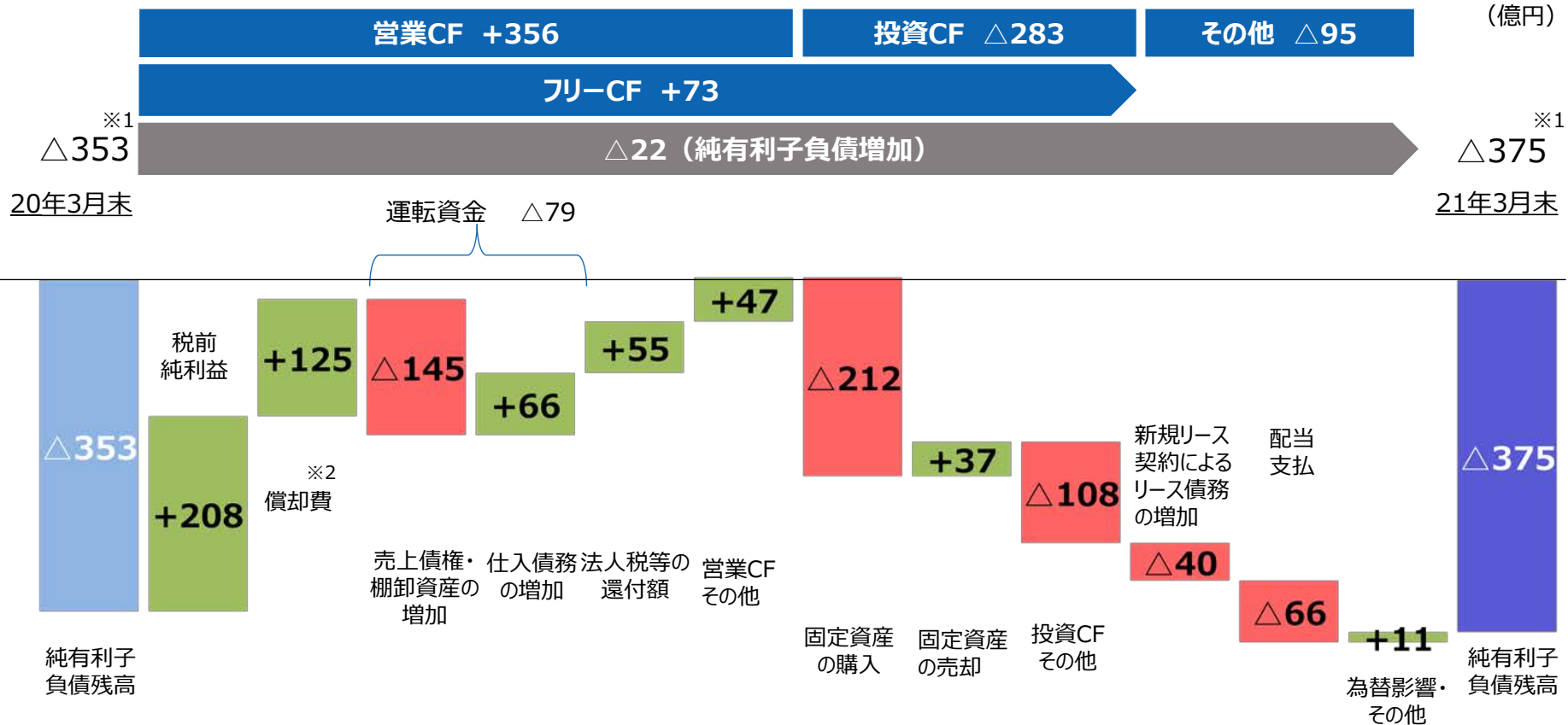
2021年度期末連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



※1 純有利子負債残高

※2 減価償却費+のれん償却額

2020年度期末連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



※1 純有利子負債残高

※2 減価償却費+のれん償却額

中期連結数値計画に対する進捗

	中期計画		2021年度実績	進捗/達成状況
連結売上CAGR	6%以上	➡	20.3%※1	○
連結EBITDAマージン	18%以上	➡	23.9%	○
連結営業利益率	10%以上	➡	18.5%	○
ROE	12%以上	➡	23.2%	○
ROIC	8%以上	➡	15.4%	○
(リース債務を除く) 純有利子負債 /EBITDA倍率	2024年度末：1.3倍以下 (中計期間中2.5倍以下を維持する)	➡	0.17倍	○
自己資本比率 (不動産ファイナンスを除く)	40%以上	➡	48.9%	○
5年間累計営業キャッシュ・フロー	1,500億円以上	➡	908億円※2	○
5年間累計フリー・キャッシュ・フロー	500億円以上	➡	317億円※2	○

※1 対2019年度CAGR

※2 2年間累計

2022年度（2023年3月期）計画

LTS事業における重点施策

H.U. Bioness Complex

- 全面稼働に向けた取り組みおよび早期の効果発現

売上成長

顧客獲得

- 営業機能統合による営業活動強化・グループ総合提案
- ICTツール導入による利便性向上

先端領域

- 新たな商品開発と受託体制整備
- 更なる成長へ向けた情報収集強化

収益構造改善

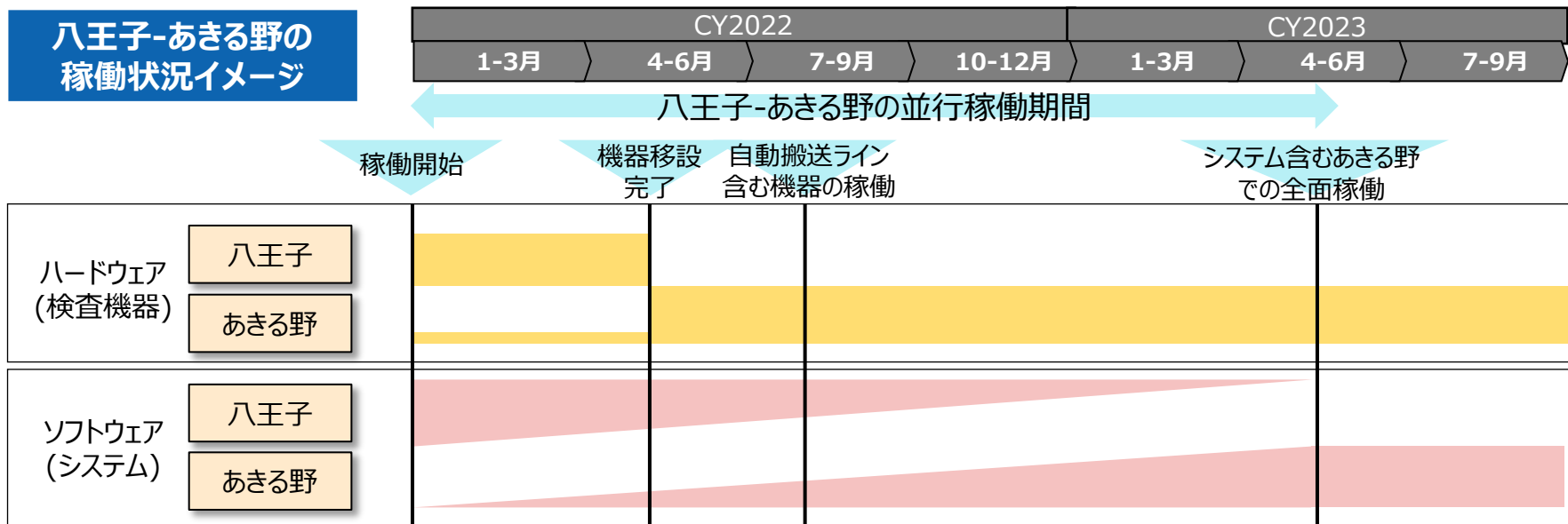
集荷物流機能

- メディパルホールディングスとのJVを推進
 - 早期に事業基盤を確立すべくフィージビリティスタディを実施
- ### 固定費削減
- Afterコロナにおける、あるべき固定費構造を構築

H.U. Bioness Complex 今後の見通し

- 八王子からの機器移設はすでに完了（2022年5月大型連休中）
- 自動搬送ラインについて、当社が求める品質水準を満たしていないとの判断により、追加開発・検証を最優先で対応し、2022年7月に稼働予定
- システム(請求等)含めた全面稼働は**2023年5月**へ延伸、追加開発投資により投資総額は**約380億円**（検査機器+ITシステム）全面稼働時の減価償却費**約65億円**がフルに発生するのは2024年度以降
- 当面は八王子-あきる野の並行稼働を行うための費用が発生する見込み

八王子-あきる野の稼働状況イメージ



H.U. Bioness Complex 関連費用・発現効果の22年度見込み

	2021年度 実績	2022年度年間見込み額	
一時費用	▲56億円	▲36億円	<ul style="list-style-type: none">•22年5月の機器移設費用•並行稼働期間延長の影響
減価償却費	▲3億円	▲50億円	<ul style="list-style-type: none">•稼働範囲の拡大とともに増加
ランニングコスト※	▲10億円	▲38億円	<ul style="list-style-type: none">•定額コストが発生
効率化効果	—	+14億円	<ul style="list-style-type: none">•徐々に効果が発現

中計の前提の変化

H.U.2025策定時 (2020年9月)

1. 新型コロナウイルス影響は前半のみ（2022年以降は計画に織り込まず）
2. H.U. Bioness Complexを中心とした収益拡大フェーズは中計後半から
3. 中計期間中に新関西ラボ含むラボ再編が完了

現時点

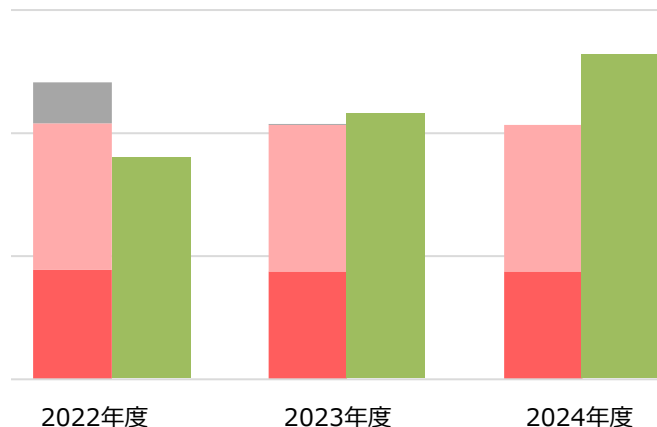
1. 新型コロナウイルス影響が長期化し、関連検査・製品は継続
2. H.U. Bioness Complexは段階的な稼働となり、収益性改善によるプラス効果および減価償却費発生によるマイナス効果が後ろ倒し
3. 新関西ラボの計画を見直し

H.U. Bioness Complex 関連費用・発現効果 22年度以降の見通し

- 段階稼働としたことによる効果発現の後ろ倒しおよび並行稼働による一時的なコスト増を見込む
- 投資総額の増加による減価償却費の増加等はあるものの、2024年度には効果総額が費用増を上回る見通しは不変

中計策定時

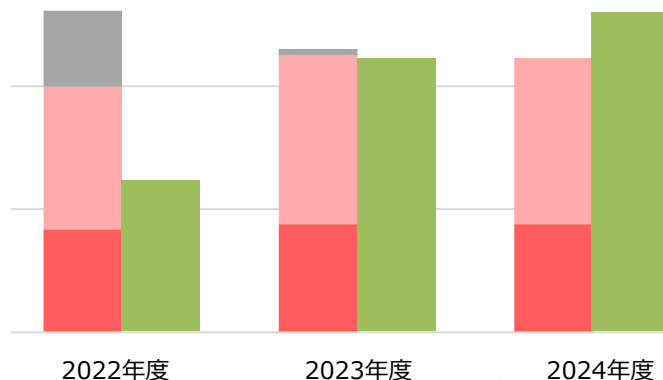
- 2023年度よりコストメリットが発現



■ ランニングコスト ■ 減価償却費 ■ 一時費用 ■ H.U. Bioness Complexによる効果

現時点の見通し

- 2022年度はマイナスインパクトが増加
- 減価償却費を中心に当初想定より費用増となるものの、2024年度には当初想定レベルのコストメリットを確保

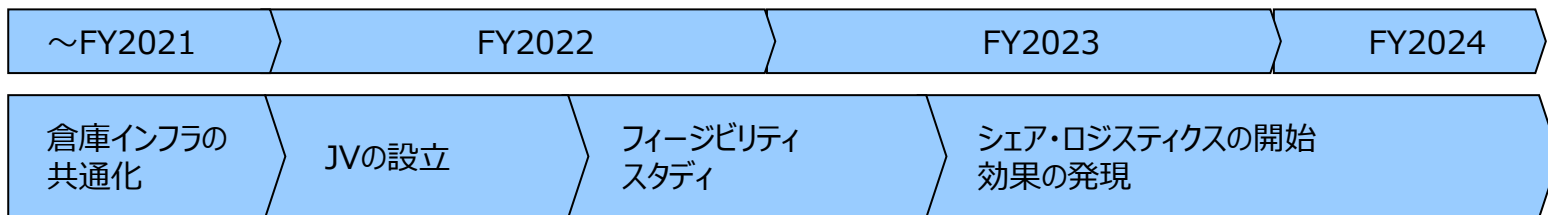


■ ランニングコスト ■ 減価償却費 ■ 一時費用 ■ H.U. Bioness Complexによる効果

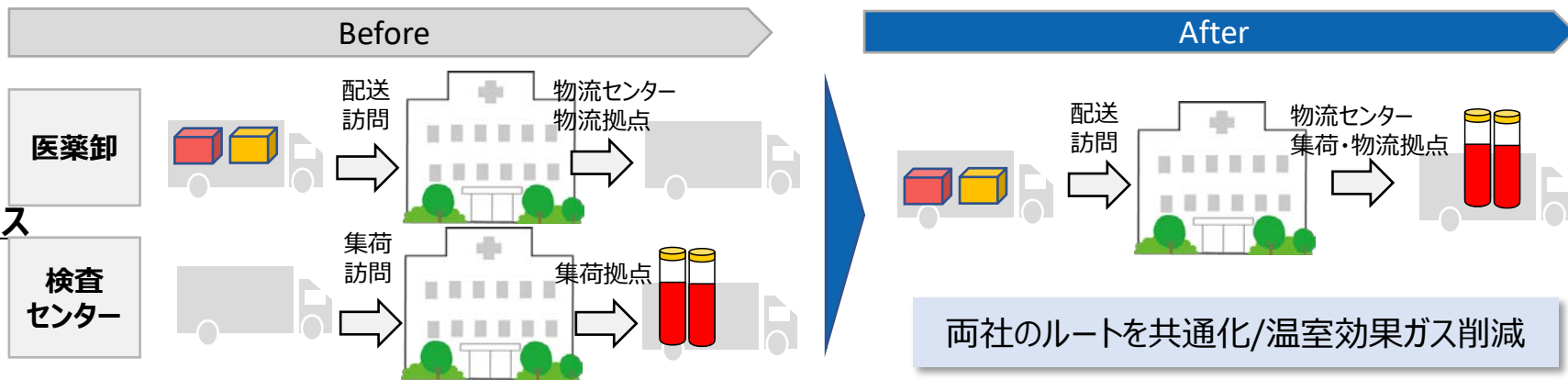
メディカルHDとの協業

22年4月設立、同年10月より稼働予定のJVを通してシェア・ロジスティクスを推進
中計策定時の想定（2022年度に集荷コスト15-20%削減※）に比べて効果発現は遅れることを想定

タイムライン



シェア・ ロジスティクス イメージ

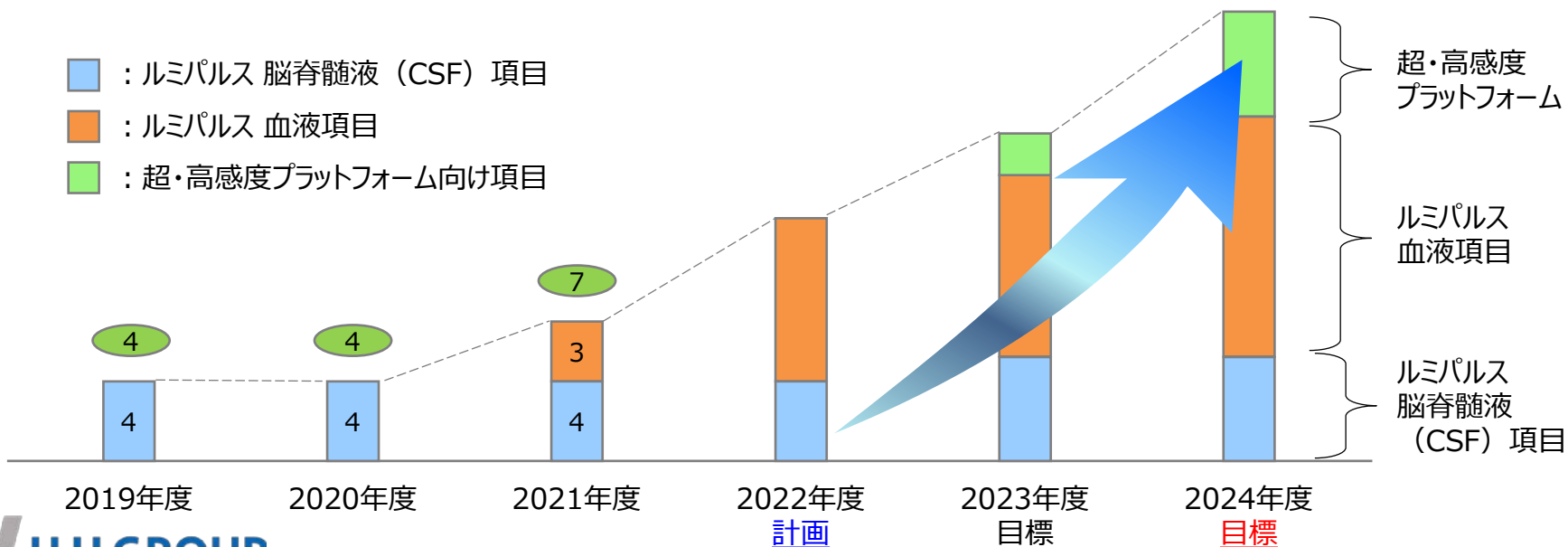


IVD事業における重点施策：ルミパルスおよびアルツハイマー関連検査

ルミパルス

- 20-21年度に大幅に拡大した機台数をベースとした採用項目の拡大
- アルツハイマー関連項目の開発強化
- 八王子工場移転による生産能力およびSCM強化

アルツハイマー関連検査上市済み項目数



IVD事業における重点施策：CDMO

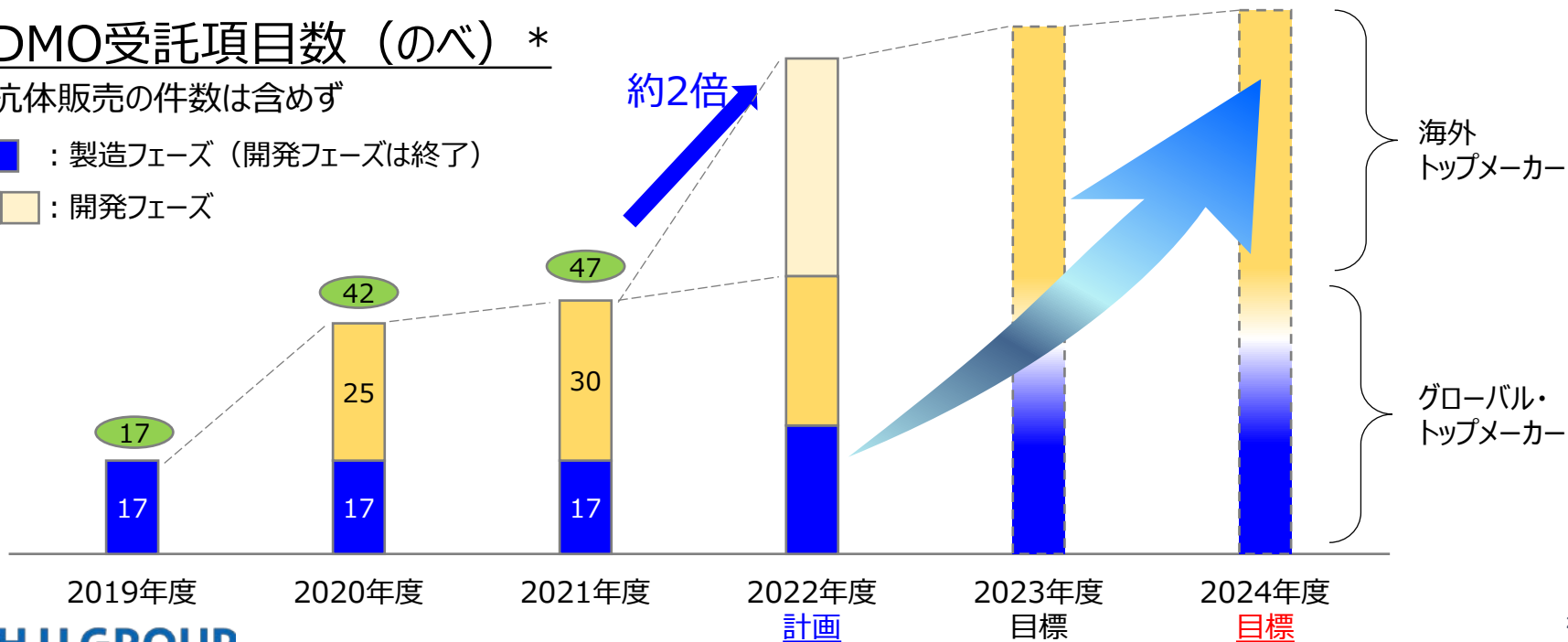
CDMO

- 開発フェーズにある項目を確実に製造フェーズへ移行させる
- ユニーク項目の強みを活かし、グローバルに展開するパートナー以外へも事業を拡大（海外でのトッププレイヤー）

CDMO受託項目数（のべ）*

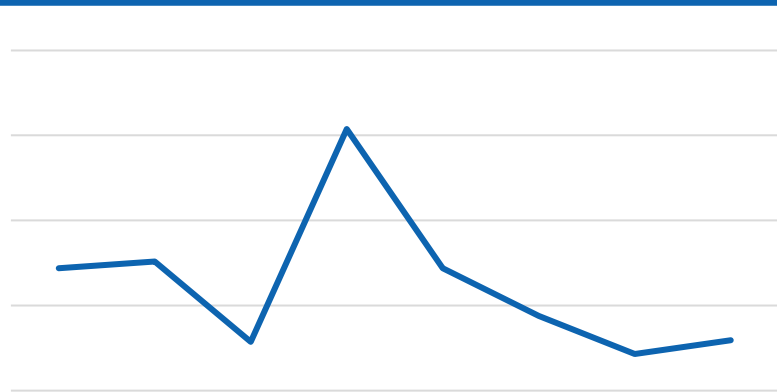
* 抗体販売の件数は含めず

- : 製造フェーズ（開発フェーズは終了）
- : 開発フェーズ



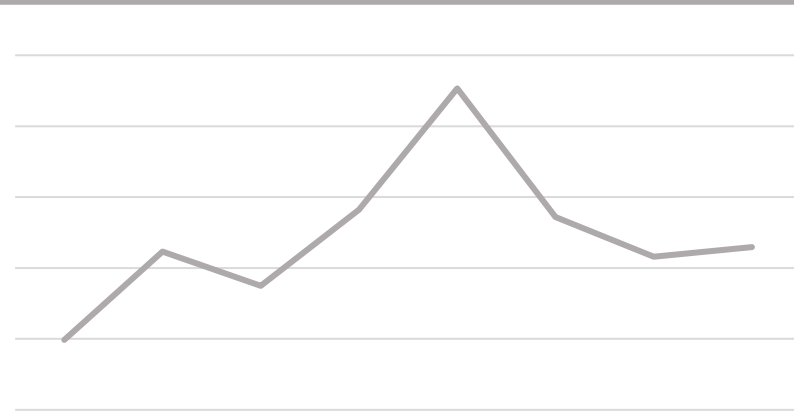
新型コロナウイルス関連検査の前提イメージ

PCR検査受託数



- 感染拡大せず、一定の水準が継続する見込み
- 診療報酬引き下げにより単価は下落

空港検疫所における高感度抗原定量検査実施数

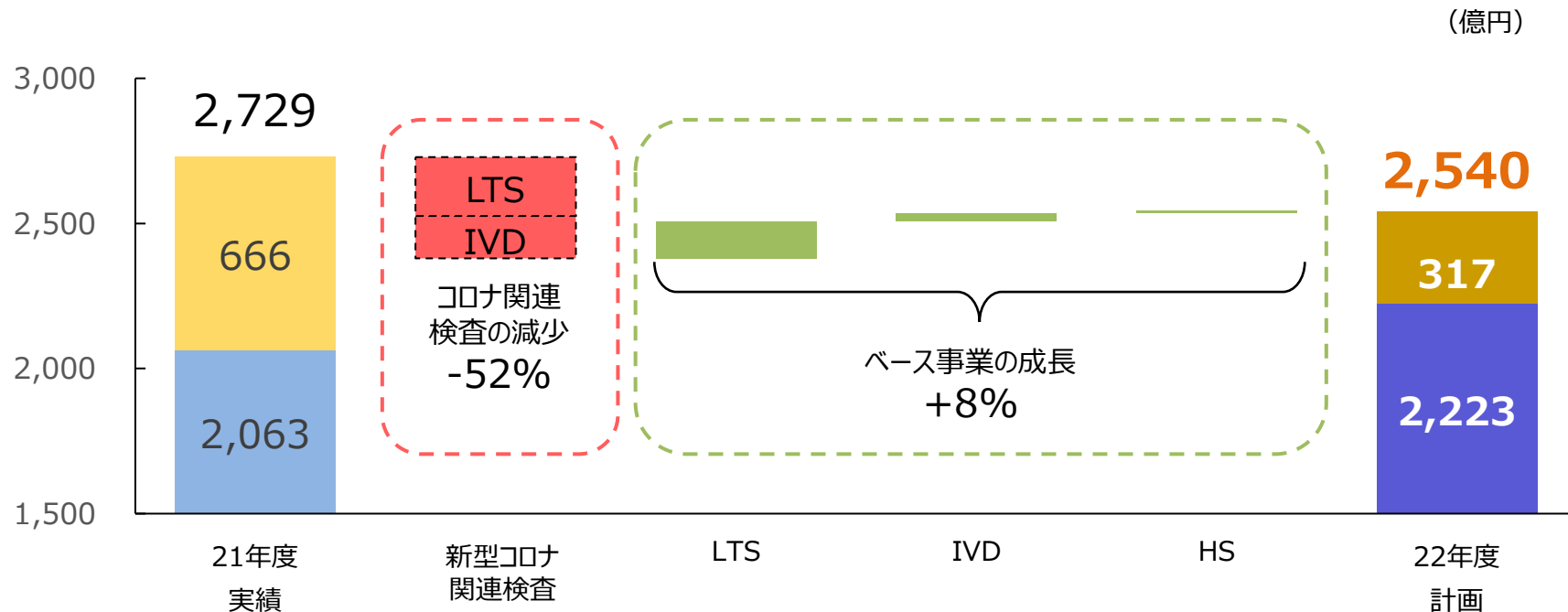


- 上期は拡大するも、下期は安定することを想定

2022年度売上高計画（対2021年度）

売上高は-7%の減収を見込む

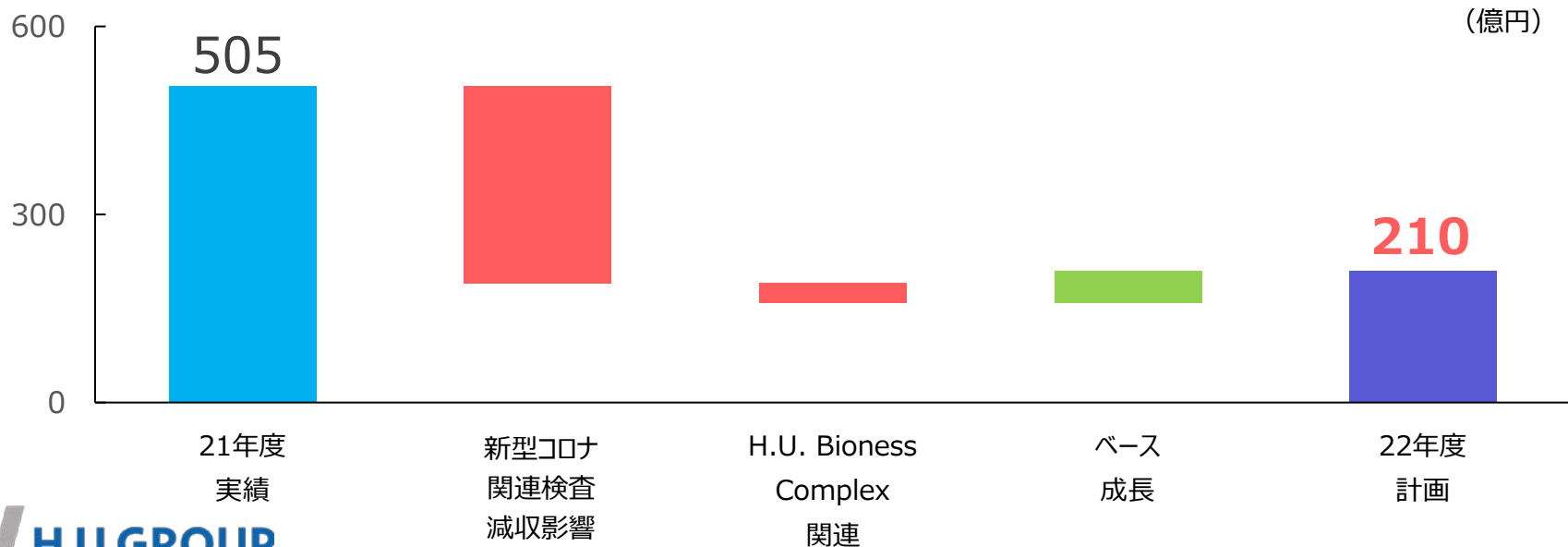
- 新型コロナウイルス検査関連売上高は約52%減
- ベース事業は約8%成長



2022年度営業利益計画（対2021年度）

営業利益は58%の減益を見込む

- 新型コロナウイルス検査関連売上の減収およびH.U. Bioness Complex関連※による減益影響
※増加費用と発現効果のネットで41億円の減益影響
- 一方、固定費削減施策の推進およびベース事業の成長による増益を計画



2022年度計画サマリ

(億円)

	2021年度 実績	2022年度 計画	差異	
			増減	増減率
売上高	2,729	2,540	-189	-6.9%
EBITDA	651 (23.9%)	410 (16.1%)	-241	-37.0%
営業利益	505 (18.5%)	210 (8.3%)	-295	-58.4%
経常利益	474 (17.4%)	180 (7.1%)	-294	-62.0%
当期純利益	296 (10.8%)	125 (4.9%)	-171	-57.8%
ROE	23.2%	8.8%	-14.4pt	
ROIC	15.4%	6.0%	-9.4pt	

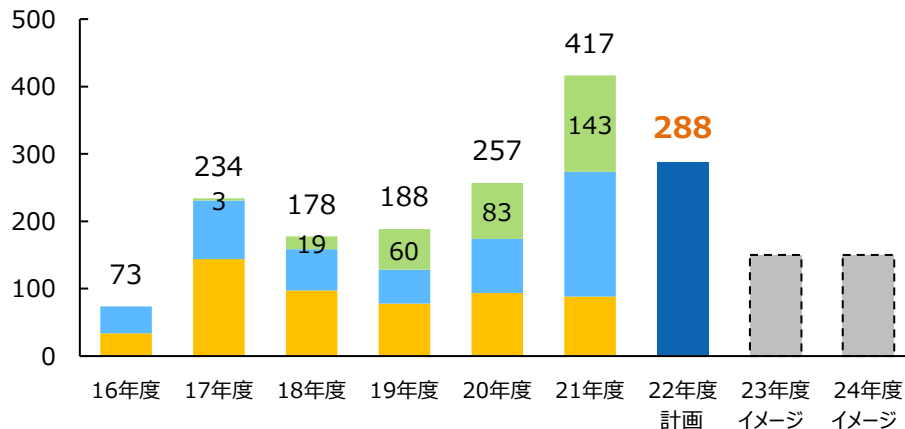
※22年度の一株当たり配当金は年額125円（中間:62円、期末:63円）を予定

中計：設備投資および減価償却費の推移および見通し

(億円)

設備投資額

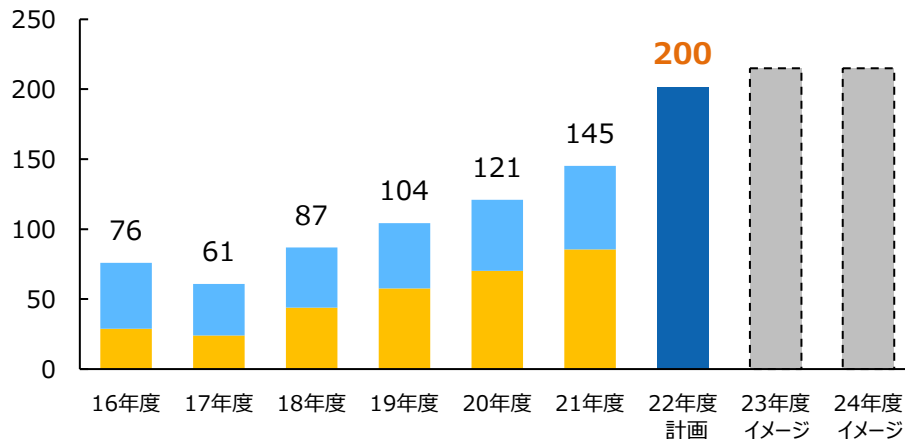
- H.U. Bioness Complex関連
- その他セグメント
- LTS



- H.U. Bioness Complex関連投資は22年度で完了
- 23年度以降は150億円レベルの水準を想定

減価償却費

- その他セグメント
- LTS

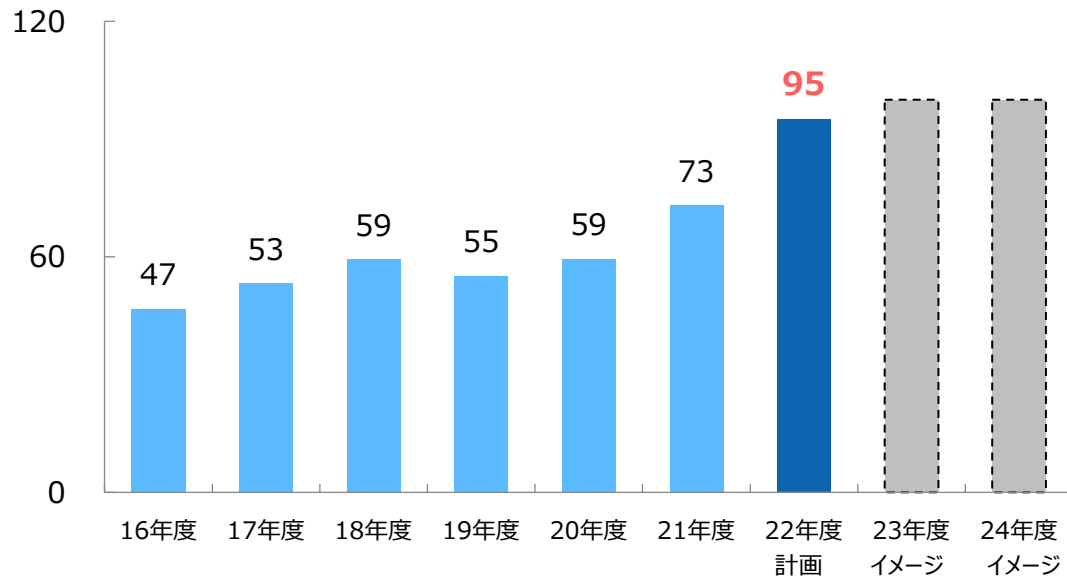


- H.U. Bioness Complex投資にともなう減価償却費は24年度よりフルに発生
- 26年度以降は減少する見込み

中計：研究開発費の推移および見通し

研究開発費

(億円)



IVD

- ルミパルス新規項目開発および超・高感度検出の製品化を継続・強化
- IVD事業の売上高に対して10%以上を目安に継続的に資金を投下

Corporate

- 中央研究所における基礎研究等を目的とした研究開発を継続的に強化

【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

IR/SR部 TEL : 03-5909-3337

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。